



啓明小だより

中野区立啓明小学校

校長 中村 明子

〒165-0034 東京都中野区大和町1-18-1

電話 03-3330-2325

FAX 03-3330-2326

HP <http://nk-keimei-e.la.coccan.jp>

No. 554号 9月号 発行 令和2年9月1日

方位磁針

校長 中村 明子

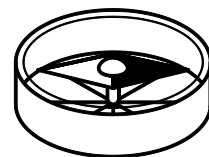
夏休み中、子供たちはどんな日々を過ごしたでしょうか。今年はずっと違う、マスクを着けての暑い夏。移動自粛で、家族で工夫して過ごした子、オンラインでおじいちゃんやおばちゃんに会った子、近場で虫を探した子、習い事に精を出した子など、思い出の形は様々なことでしょう。今年だからこそその取組が、子供たちにとっては忘れられない思い出になったことと思います。

私が夏休みに読んだ本の1冊に池上彰氏の「おとなの教養」というものがあります。その中で、こんな言葉が紹介されていました。「すぐ役立つことは、世の中に出てすぐ役に立たなくなる。すぐに役に立たないことが、実は長い目でみると役に立つ。」この夏の子供たちの体験や思い出も、すぐ、役に立つものではないかも知れません。また、日々の生活の中における基礎基本を中心とした学習や様々な生活体験も、それらすべてがすぐには役に立たないように見えるかも知れません。しかし、長い目で見れば、大切な自分自身の基礎を形成しているのです。子供たちにもこのことを伝え、希望をもって、生活してほしいと思っています。

現在の科学技術の土台となる「相対性理論」を発見したアインシュタインは、1879年ドイツの小さな町で生まれました。アインシュタイン少年が5歳の時、お父さんから「方位磁針」をプレゼントされました。少年は、驚きました。それは、どの方向を向けても針が必ず北を指すことです。この時、目に見える物を動かす「見えない力」があることを知りました。アインシュタイン少年の素晴らしさは、「不思議だな」と興味をもって思ったことを「どうしてだろう」と考えたことです。

学校が始まり、子供たちの歓声が戻ってきました。学校に命が吹き込まれたようです。今のこの時を大切にしながら、私たち教員は、「長い目で見れば、大切な基礎を形成しているのだ」

「興味をもって思ったことを大切にしたい」を子供と共に心がけ、共に発見の喜びを共有し、一人一人の力を伸ばしていきたいと思っています。



9月の生活目標

「生活のリズムを整えよう」

生活指導部 大塩 依理子

例年とは違った夏休みとなりましたが、普段できないことに取り組みながら、いろいろな経験をして楽しく過ごせたことと思います。さて今日から前期後半が始まります。生活リズムが崩れてしまった子供たちもいるのではないのでしょうか。子供たちが朝から集中して学習に取り組むためにも「早寝、早起き、朝ごはん」を習慣付けたいものです。スムーズに夏休み明けの学校生活に戻れるよう、ご家庭でのご協力をお願いします。